

第23回 日本看護管理学会学術集会
指定インフォメーション・エクスチェンジ3
「地域力向上に向けた看護管理者の連携と情報利活用」

LONG TERM CARE の見える化



VENUSプロジェクト

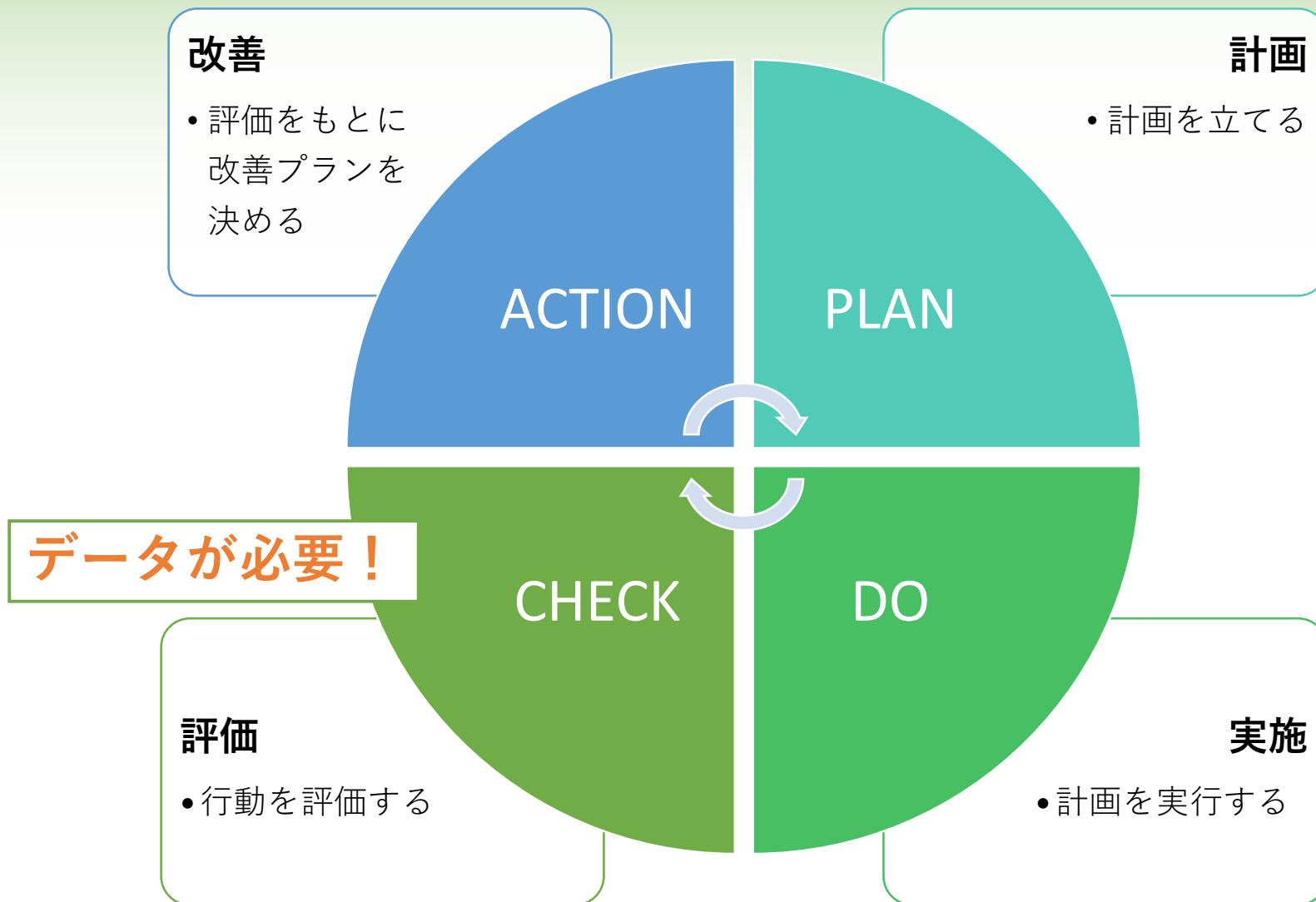
VENUS Visualizing Effectiveness of NUrSsing and Long-term Care

東京大学大学院 医学系研究科
高齢者在宅長期ケア看護学分野
五十嵐 歩

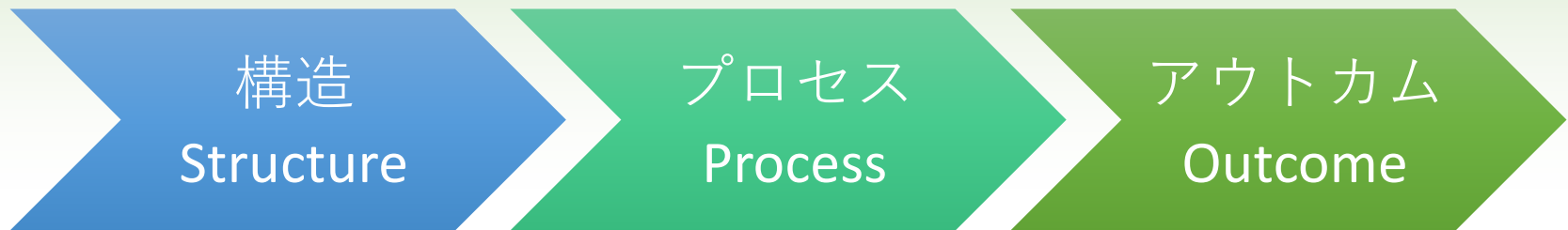
Long-term careの可視化の必要性

- 高齢者が安心・安楽に生活を続けるためには、日々の生活を支えるlong-term careの確保とその質の保証が必須である
- 質保証には正確で客観的な質評価が求められるが、本邦ではlong-term careの質評価のシステム構築はいまだ進んでいない
- 地域包括ケアシステムにおいて高齢者は療養病床・施設・在宅など多様な居住形態でlong-term careを受けており、身体状況に応じ居住場所を移動している
- 療養場所を横断して使用できるアウトカム・プロセス質指標が定期的に測定できる仕組みが求められる

PDCAマネジメントサイクル



Donabedianによる医療の質評価モデル



どのような場・状況で
医療が提供されたか

- 施設
- 医療機器
- 医療スタッフの
種類・人数等

何がどのように
提供されたか

患者に何が起きたのか

プロセス・アウトカムの
評価が難しい

地域包括ケアシステム

医療



介護



住まい



保健師



地域包括支援センター



老人クラブ・自治会・ボランティア・NPO 等

生活支援・介護予防

療養場所を越えた
評価指標が必要

ケアの効果の可視化プロジェクト ～VENUSプロジェクト～



Visualizing Effectiveness of **NUrSsing** and Long-term Care

目的

1. Long-term care (LTC) を受けている高齢者へのケアのアウトカム・プロセス質指標を開発すること
2. 要介護高齢者の経過とそれに伴うケア提供状況（プロセス指標）を前向きに把握し、訪問看護等介護保険サービス利用と高齢者の生活・身体状況（アウトカム指標）の関連を検討すること

厚生労働省老人保健事業 「要介護高齢者等に対する看護介入による効果検証事業」 (山本則子)

JSPS科学研究費 「Long-term care アウトカム質指標の開発：退院患者の施設・在宅横断型指標の構築」 (五十嵐歩)

公益財団法人政策医療振興財団研究助成金

「非がん疾患在宅療養の予定外入院の関連要因の検討」 (小林弘美)

LTC質指標の概要： アウトカム指標 ドメイン



- 高齢者が安心・安楽に過ごすために最低限必要だと思われる質指標の土台を研究者内会議で抽出
- ゴードンの11の機能的健康パターンを参考に作成
- ケアの質が反映されると思われるような枠組みに修正
- 目指すべき状態が分かるような表現で作成

ゴードンの機能的健康パターンと LTC質指標ドメインの関係

ゴードンの機能的健康パターン	LTC質指標
1. 健康知覚／健康管理	苦痛の最小化
2. 栄養／代謝	食生活の維持
3. 排泄	排泄行動の維持
4. 活動／運動	身体活動の維持
5. 睡眠／休息	睡眠の確保
6. 認知／知覚	認知機能低下による生活障がいの最小化
7. 自己知覚／自己概念	人としての尊厳の追求
8. 役割／関係	
9. 性（セクシュアリティ）／生殖	
10. コーピング／ストレス耐性	
11. 価値／信念	家族のウェルビーイングの追求

LTC質指標の概要： アウトカム指標 項目



ドメイン	項目
1. 人としての尊厳の追求	社会的交流の確保、希望する生き方の実現、希望するケアの実現、活動制限の撤廃
2. 苦痛の最小化	疾患悪化予防、感染症（尿路・呼吸器）予防、褥瘡予防、呼吸困難への対処、疼痛への対処
3. 食生活の維持	栄養状態の保持、脱水の予防
4. 排泄活動の維持	排泄活動の維持
5. 身体活動の維持	転倒転落による外傷の予防、日常的な活動の維持、寝床以外での活動の維持
6. 睡眠の確保	生活に支障がない睡眠の確保
7. 認知機能低下による生活障がいの最小化	認知機能の低下による生活障がいの最小化
8. 家族のウェルビーイングの追求	家族のウェルビーイングの追求

質指標の概要：プロセス指標



- 各質指標項目に対して、アウトカムの発生・悪化を予防もしくはアウトカムを改善するために必要と考えられる**プロセス指標**を作成
- プロセス指標は「アセスメント」と「ケア」の2軸で検討
- 各プロセスの実施の有無を「はい」「いいえ」「わからない」で回答
- 「誰がケアを実施するか」ではなく、高齢者を主語に「ケアを受けている」ことに注目（訪問看護など特定の領域ではなく、LTC全般で使用していきたいため）
- 明確にケアを「受けたか、受けていないか」判断しやすい指標であることを意識して作成

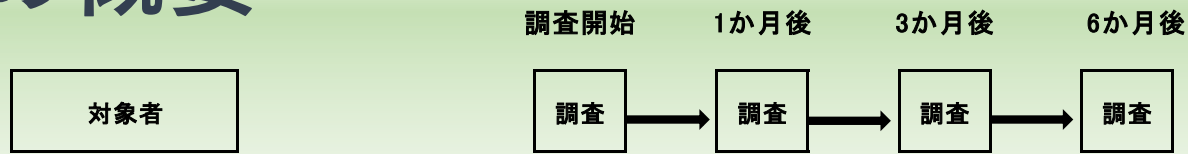
エキスパートパネルの実施



エキスパートパネルを実施し、アウトカム・プロセス指標の項目を検討

- 看護師（研究者含む） 12名
- 医師 3名
- 介護支援専門員・介護福祉士等 3名
- その他（福祉系研究者・ジャーナリスト） 2名

調査の概要



対象者

訪問看護ステーション
(訪問看護師)

75歳以上利用者

主疾患名を持つ方
心不全
肺炎
脳血管疾患
大腿骨頸部骨折
がん
神経系疾患

■看護師(Web調査)			調査開始	1か月後	3か月後	6か月後
提供者情報	事業所特性	<input type="radio"/>				
	看護師特性	<input type="radio"/>				
利用者情報	利用者特性	<input type="radio"/>				
	質指標					
	プロセス指標	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	アウトカム指標	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
■利用者/家族(質問紙調査)						
質指標	QOL	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>

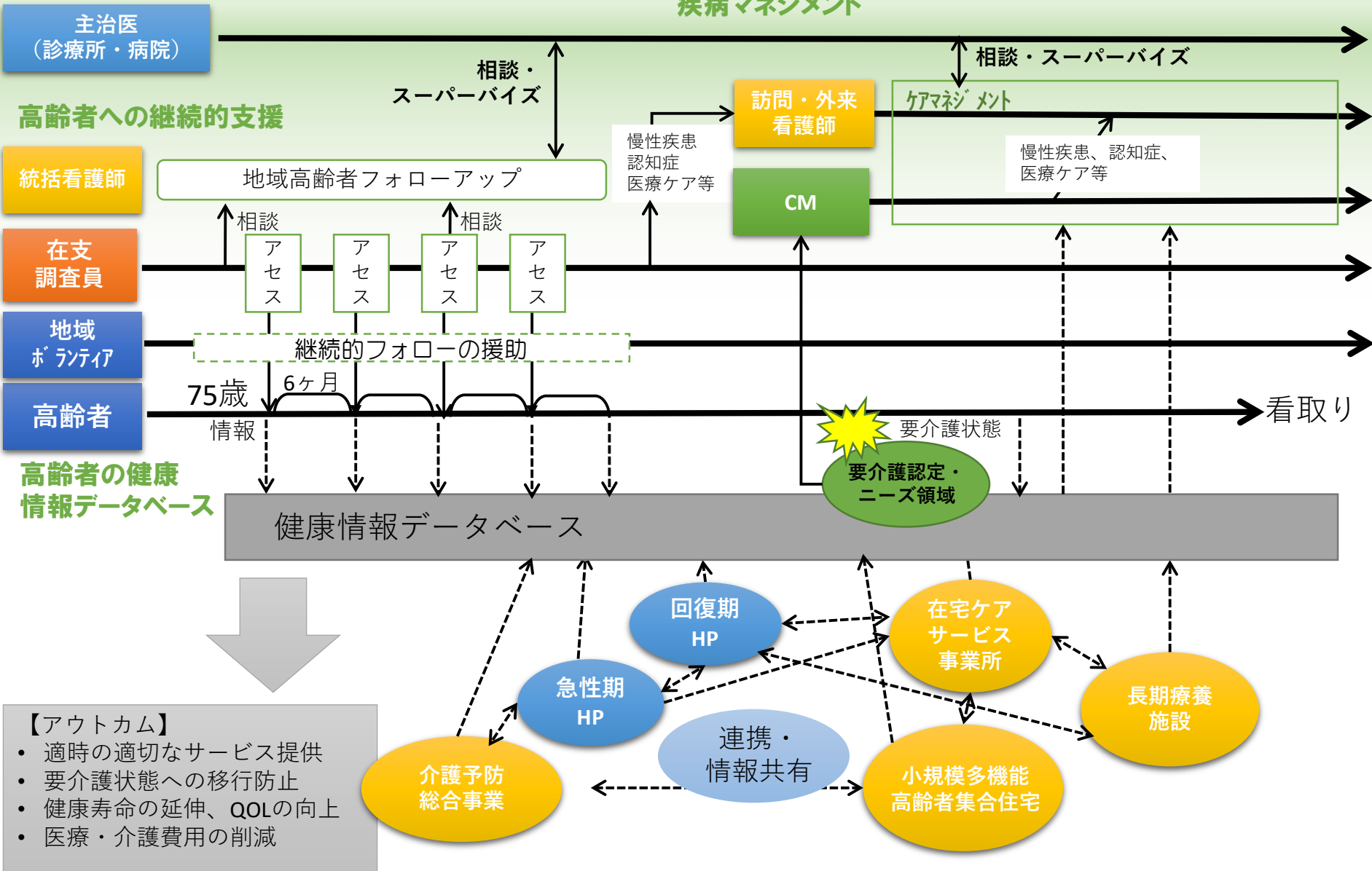
居宅介護支援事業所
(介護支援専門員)

75歳以上利用者

主疾患名を持つ方
心不全
肺炎
脳血管疾患
大腿骨頸部骨折
がん
神経系疾患

■看護師(Web調査)			調査開始	1か月後	3か月後	6か月後
提供者情報	事業所特性	<input type="radio"/>				
	ケアマネ特性	<input type="radio"/>				
利用者情報	利用者特性	<input type="radio"/>				
	質指標					
	プロセス指標	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	アウトカム指標	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
■利用者/家族(質問紙調査)						
質指標	QOL	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>

疾病マネジメント



まとめと今後の課題



- Long-term Careの質向上に向けて、ケアの可視化が不可欠であり、療養場所を横断して使用可能な指標を開発した
- 開発されたプロセス・アウトカム指標を用いて、看護ケアの効果を検討するプロジェクトを進めている
- 将来的に、看護師の日常業務の中で自動的にデータ収集ができ、療養場所を問わずにデータを蓄積できるシステムを開発し、運用することを目指したい